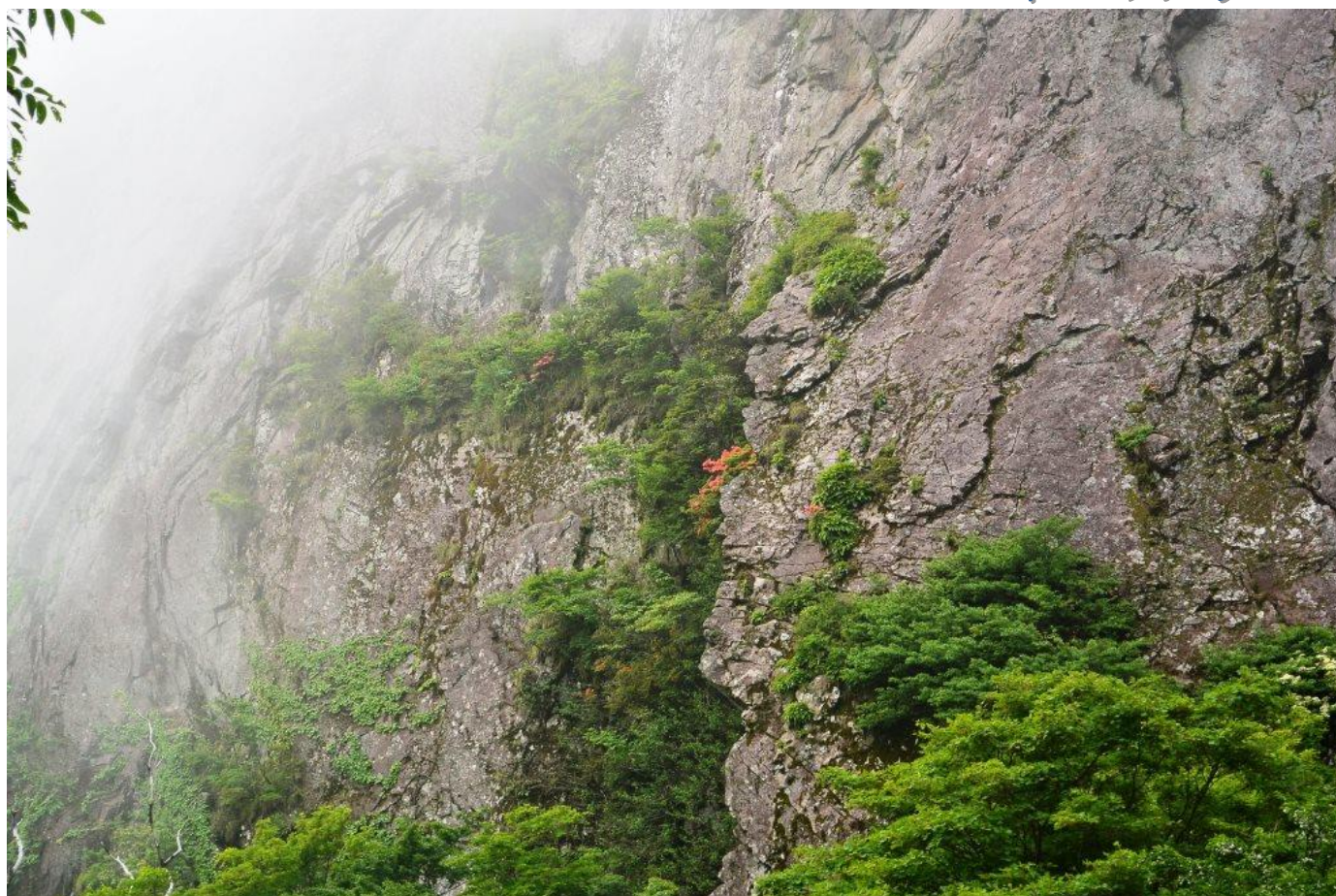


おれんじニュース

No292

2014年7月号



裏英彦山の県境尾根を反時計まわりに周回した。籠水峠を過ぎたあたりで前方に大岩壁が見えた。

今月号の記事	平和行進・祖母山・眉山・クリーンハイク(小野、金比羅山)・英彦山尾根周回・寄稿
--------	---

運営委員会の日時が4月から変更 第二火曜日午後13:30~です。

★集会・委員会のお知らせ★ 山行の一步は集会参加から				
	2014年7月	2014年8月	時間	場所
運営委員会	8日(火)	12日(火)	13:30~16:00	西諫早公民館
全体集会	23日(水)	27日(水)	19:00~21:30	西諫早公民館

祖母山 5月17日(土)~18日(日)



山頂からの夜明け



山頂のアケボノツツジ



山頂



眉山から見た平成新山



眉山

雲仙の歴史を学びましたよ



頼もしいベテラン陣

2014/7月の山行



部	技術研修部	山行部	ひまわり山行部	自然保護部
月・日	7/6(日)	7/19(土)	7/25(金)	7/27(日)
山名(行事)	蛤岳(862.8m)	雲仙周回左周り	岩屋山(475m)	松尾岳・行仙岳 船石岳
地 図	中原	雲仙・島原	長崎西北部	長崎東北部
集合場所	西諫早駅 7:00	西諫早駅 7:00	諫早駅 8:20・西諫早駅 8:24(道の尾駅下車)	西諫早駅 8:00
難易度	初級	初級	初級	初級
帰着時間	17:00	17:00	16:30	16:30
歩行時間	3h	3.5h	3.5h	3h
交通手段	マイカー	マイカー	公共交通機関	マイカー
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温泉	無し	有り	無し	東長崎銭湯
参加費	2,000円	1,000円	交通費のみ	1,000円
申込期限	定員になり次第	定員になり次第	随時	随時
集 約	佐原	高森	金丸	中里
備 考	蛤水道に沿って歩きます。涼しい登山です。	ヤマアジサイの美しい頃でしょう。	長崎市民の憩いの広場です。	地元の山を歩きましょう
感想文提出	7/16	7/29	8/5	8/7

技術研修部より (申込みは 川原まで 当日参加OK)

セルフレスキュー 6月28日(土) 西諫早駅 9:30
7月26日(土) 西諫早駅 9:30

事故に対処する技術を身に付けます。
レスキューの心得があれば、事故予知能力が身に付き
事故を未然に防ぐことができます。



ロッククライミング雲仙牛首 7月 4日(金) 西諫早駅 9:00 (雨の場合は沢に変更)
沢登り (初級) 7月11日(金) 西諫早駅 8:30 (小川内 左俣)
沢渡渉 8月30日(土) 西諫早駅 8:30

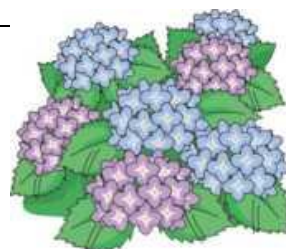
2014/8月の山行



	山行部	ひまわり山行部	技術研修部	自然保護部
月・日	8/5(火)～8/9(土)	8/22(金)	8/24(日)	8/29(金)
山名(行事)	立山登山 & 黒部ダム見物	岩床山	黒髪山	轟峡～金泉寺
地 図	立山・劔岳	雲仙	有田	多良岳
集合場所	5日20時: 諫早インター	西諫早駅8:00	諫早駅裏6:20 西諫早駅6:30	西諫早駅8:30
難易度	中級	初級	初級&中級	初級
帰着時間	9日6:30:諫早インター	19:00	17:00	16:00
歩行時間	6日1.5h 7日6～7.5h	2h, 3h	4h	3.5h
交通手段	公共交通機関	マイカー	マイクロバス	マイカー
宿泊施設	バス2泊、山小屋2泊	日帰り	日帰り	日帰り
温泉	雷鳥荘	有り	有り	有り
参加費	6.5～7万円	1,000円	4,000円	1000円
申込期限	6月30日	随時	随時	随時
集約	高森	金丸	佐原	中里
備考	立山主峰(雄山、大汝山、富士の折立) 真砂岳、別山など 3000m級5山縦走と黒部ダム放水を見学	眉山の続きです 平成新山の溶岩ドームを間近に見る事ができます。	竜門キャンプ場から涼しい登山道を歩きます。後黒髪もいってみよう。	小松尾公園を通過して巨大なヒメシャラを眺めて気持ち良い涼しい道です。
感想文提出	8/19	9/2	9/4	9/9

県連関係行事予定

6/30(月)	沢登り講座(市民会館)	10/05(日)	いつだって花盛り女性委員会
8/02(土)	平和登山・被爆遺構巡り	10/11,12	全国第17回全国登山者自然保護
8/10(日)	沢登り実技(ウナギレ沢)	10/18,19	県連登山フェスタ 金泉寺予定
9/27,28	中央登山学校九州校(阿蘇) 全国ハイキング交流集会(岐阜)		



2014年 国民平和進行長崎県コース（長崎から広島へ）

月 日	6/28(土)	6/29(日)	6/30(月)	7/1(火)	7/2(水)	7/3(木)	7/4(金)	7/5(土)
西海橋 経由も あり	平和祈念像 出発集会 13:00 13:30 出発	蛍茶屋 9:10 出発	西諫早駅 9:10	大村市役所 9:00	東彼杵役場 前 9:10	ハウステンボス駅 9:30	佐世保駅前 9:30	早岐駅前 9:30
	蛍茶屋 16:40	西諫早駅 17:00	大村市役 所 16:00	東彼杵駅前 15:30	ハウステンボス駅 15:40	佐世保駅前 15:00	四ヶ町・戸 の尾公園 12:10	三川内陶 器組合前 12:15(引 き継ぎ)

2014年5月/6月の山行報告



5月 17日～18日

祖母山

(参加者) 中須賀、鎗水、中里、間ノ瀬、田中(静)、高森、林(和)、松田 (8名)

(行程) 往 : 6:30 西諫早駅～8:30 由布 IC～11:00/11:40 神原登山口 P(昼食)～12:25 五合目
小屋～14:55 国観峠～16:10 祖母山～16:35 九合目小屋「あけぼの山荘」泊
復 : 7:00 九合目小屋「あけぼの山荘」発～7:35 国観峠～9:20 五合目小屋～10:10
神原登山口 P～国道 57 号線～熊本 IC～18:30 西諫早駅

(感想)

8名の仲間と西諫早駅より中里さんの車で出発です。

私の気持ちはワクワクと不安が半々、十年ぶりの山登りです。高速道路に入り湯布院へ。車窓を横目に神原登山口駐車場に着き昼食後に出発。日差しは柔らかく、涼しい風が顔を横切っていく。神原溪谷路を歩き大小の滝を右手に見ながら、沢を右に渡り登山道に入る間もなく、五合目小屋に到着。これから本格的な山登り、長い階段、急登の連続、所々滑りやすい所もあり、ちょっと緊張しました。八合目、九合目までは長く長く感じました。先に九合目山小屋に入り、そこにリュックを置いて、祖母山へ登頂。体は軽く登りきった事で、「ヤッター」と大声を出しました。疲れも一緒に飛んで行ってしまいました。見渡すと名だたる山々が見えて、アケボノツツジも十分見ごろでした。又、薄いピンクのシャクナゲも所々に見ることができまし





た。九合目山小屋で1泊。管理人さんが迎えて下さいました。クラシックや青春時代の音楽DVDを流して下さいました。前もって飲み物を頼んでいたの各自、野菜、食糧を持って来たのを出し合い、その夜は話が弾み楽しい夜を過ごしました。就寝は9時、「お子様」時間で中々眠れなかった。嬉しくて。

翌日は同じコースを下山です。青く生い茂る新緑、赤松のたたずまい、小鳥の鳴き声を聞きながら気持ち良く下山。しかし、足が思うように動かなくて、ちょっと焦りました。仲間からの励ましで無事、神原登山口駐車場に下山することができました。後は原尻の滝へ行く。阿蘇大噴火が作った岩又名水の里としても有名、祖母山、傾山、久住阿蘇山系の豊かな自然に染み込んだ伏流水が地に潤いを与えています。ここで、自然の息吹を感じた。道の駅「原尻の滝」で昼食です。団子汁定食を食べました。後、お土産買う。歩き疲れた体を「竹田温泉花水月」で入浴し一休み。次に姫だるま工房に行く。(姫だるまは、家庭円満や厄除けご利益がある縁起物)を見学、ここから白水溜池堰堤に回る、レースのカーテンのように流れる様は美しかった。これから諫早へと帰路につく。

(松田京子 記)

5月23日(金)

眉山(818.7m)

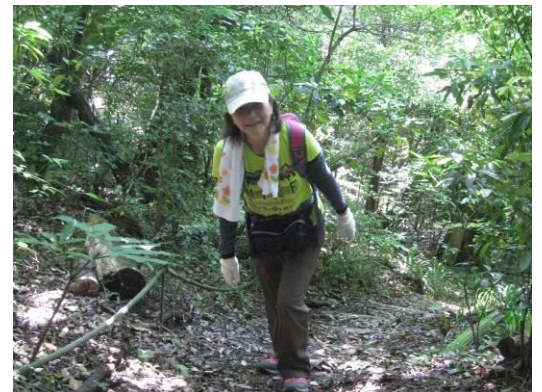
(参加者) 福岡、小山、佐原、中野、松岡、田村、高森、山下(文)、林(孝)、金丸(直)、川内、吉川、佐藤、佐賀労山から3名 (16名)

(行程) 西諫早駅前 7:30→眉山登山口(天狗山、七面山登山口) 9:20→七面山頂上着 10:10→同所発 10:30→眉山登山口着 11:55→同所発 12:30→平成新山ネイチャーセンター着 12:40→同所発 13:00→島原温泉着 13:20→同所発 14:00→諫早市山川町バス停着 15:30

(感想) 7時30分西諫早駅前を2台の車に分乗して出発し、9時に眉山登山口に到着した。(案内板によると眉山は天狗山と七面山を総称した名前と表示されていた。)

佐賀労山の3人の方は既に到着されていて、そこでお互い自己紹介をし、準備体操後七面山を目指してFさんを先頭に登山開始した。

私たちは佐賀労山の方と佐賀の実情等を聞きながら最後尾につけて登山開始した。当初はなだらかな上り下りの登山道であったので「この調子なら楽なものだ」と高をくくっていたところ、20分位経った頃から急な上り坂となった。登山道一帯は頂上まで雑木が生い茂りトンネルのようになっており、ほのかなぼれ日が所々に差込み、汗もあまりかかないという有様で「真夏でもいいコースだ」と言いながら後について登った。





50分位で漸く七面山の頂上に辿り着いた。頂上からの眺めは「絶景かな、絶景かな」という言葉以外の表現のしようがない有様、雄大な平成新山を間近に眺められたし、頂上から少し下ったところからは島原市内や有明海、霞んではいたが天草等も眺めることができた。

20分ほどで下り始め、私は下りも最後尾のグループで、暫くしたら5人のグループになっていた。急な下り坂だったので滑らないように、滑らないようにとゆっくりゆっくり下ったり、休んだりしたので先頭グループとは相

当な差がついてしまった。「この調子だったら、Fさんが心配して迎えに来られるかもしれん」と話していたところ案の定Fさんが登ってみえた。

正午少し前に登山口に到着、先頭組みは既に昼食の真最中、最後尾組も加わって昼食。昼食後、平成新山ネイチャーセンターを見学し、島原温泉を經由して車は諫早へと走り出し、15時30分ごろ山川町のバス停に着いた。今回の登山は天気もよかったし、登山道も樹木に覆われ、また、頂上から眺める景色、特に雄大な平成新山を間近に眺められたこと、それと佐賀労山の方たちと一緒に登られたこと、参加してよかったと思った。最後になりましたが、運転していただいた二人の方に有り難うございましたとお礼の言葉を申し上げます。

(佐藤 記)

6月1日(日)

小野金比羅山(247m)クリーンハイキング

(参加者) 中里(CL)、中須賀、鎗水、間ノ瀬、山口(SL)、佐原、田村、下釜、山本、森、山下(ち)、高森、松田、船津、川内、北島(一般)、(16名)

(行程) 西諫早駅 9:10～小野本町、まるたか駐車場 9:40—9:50→登山口→松尾社(休憩) 10:25—10:40→金比羅岳 11:30→奥の院、展望台→金比羅岳(分別と昼飯) 12:00→登山口 12:50→まるたか駐車場 13:10～自宅(天満町) 13:20

(感想) 今日は予報どおり天気が良いので気分もよい。3台の自家用車に分譲して西諫早駅を出発。直接現場で合流する人もいて参加者が多い。

まるたか駐車場で準備体操をして往は登山道の清掃なので火はさみとビニール袋を持って登山道へ。

前回登山道を登らなかったのが初めてである。登る人が少ないのか荒れていて割と陰しくストックを利用することにした。

しばらく行くと石の鳥居があり、前の広場からは見晴らしが良い。ここは松尾社で酒造りに携った人々が祀ったもので、敷地の左には常夜灯があり橘湾の漁師が夜間この火を目当てにし



ゴミを取るよりツワを取る人?

て漁をしたと言われている。ここで休憩となったが、ツワが生えており時季は過ぎているが佃煮にすると美味しいとのことで幾人かは沢山取っていた。

参道は利用がないのか荒れているが、自然林で鬱蒼とした雰囲気は「神域」を感じさせる。

この辺りは滑りやすいので注意して歩いた。金比羅山の山頂一帯は諫早領主の信仰が厚かった曹洞宗「性圓寺」跡で石のお地蔵さん、狛犬、精巧なカニの石像などが沢山あった。また、弘法像と 50 番札所もあった。奥の院の先の三角点がある「展望台」からの眺望は素晴らしかった。



金比羅岳の前の広場でゴミの分別と昼飯をとった。この山には登る人が少ないのかゴミは少なかった。私などは殆ど拾うことが出来なかったが、そんな中で古い割れた一升びんの大物を拾った人もいた。ゴミは約 5 kg で近くの広場に置き、諫早市役所に回収をお願いするとのこと。

復は車道を通って下ったがゴミは殆どなかった。ゴミが少ないことは良いことなのに参加者が多い割に少ないゴミに悪いような複雑な心境であった。皆様お疲れ様でした。 (川内 記)

6月8日(日)

英彦山県境尾根周回

(参加者): 山下(ち)・鎗水・田中(静)・下釜・岩永(の)・高森・中須賀・外山(あしび山の会) (8名)
*本日の車はドライバー・サービス会の 10 人乗りジャンボタクシー利用とした。

(行 動): **往**: 6:20 諫早駅裏発—6:35 西諫早駅前—7:25 高速金立—8:10 高速杷木—8:45 石楠花荘—9:15 鬼杉入口—9:20 駐車場(大南林道 P) 着。

復: 15:35 鬼杉入り口登山口—15:40 石楠花荘温泉入浴 16:30—17:40 金立—18:50 諫早着

(登山行程): 9:30 大南林道 P—10:00 岳滅鬼登山口標識—10:20 峰入古道標識—10:40 岳滅鬼峠—11:30 岩壁の難所 11:50—11:55 上塚山分岐(昼食 12:20) —13:05 最低鞍部—13:40 猫ノ丸尾—14:20 籠水峠—14:50 南岳分岐—15:00 鬼杉—15:30 鬼杉登山口



歩きやすい峰入り古道

(感想): 当オレンジクラブの英彦山登山も会員の入会歴により差はあるものの 2~数回となり、裏英彦山・未知の部分・修験道者の道への興味も重なり今回のコースの選定となったようだ。

山行部の今年度計画のひとつである部員持ち回りによる登山計画作成の一環でもある。この登山コースは一部に難所の岩場もあり普段のロープワーク鍛錬の現地実証技術向上への有益な登山となろうとの期待感? or 恐怖感高い登山となった。

英彦山裏道は未行のコースでもあり、有志による偵察山行＝難関危険箇所の把握済みの登山である。ロープワークにほとんど無参加の小生は、一週間前のロープの使い方練習も済ませ、テープシュリング 3 本・カラビナ 2 個・ヘルメット(バイク運転時の代用)持参にて参加した。定刻に諫早を出て、このコースでいつも通過・温泉利用の石楠花荘に 8 時 45 分には着いた。見たような人物がうろうろしている、よく見るとオープン参加のあしび山の会の外山さん。石楠花荘でのトイレ休息は英彦山大権現でも OK とのようなのでそのまま進むと、石楠花荘すぐ先の新たな駐車場のすぐ先に、工事中につき終日「**進入禁止**」の立て札。大型の工事車両が生の大木の荷台に積んでいる。インターネットの情報等にも何もなかったのにとみな残念無念！！



しかたなく石楠花荘まで引き返してトイレ休息？・情報入手等するも新たな情報もなく、ウォーミングアップ、雨の気配もありスパッツを着け・時間節約のため「大南林道経由でなく玉屋神社から直接に岳滅鬼登山口」に行くコースなど考えつつ、上の駐車場に向かうと先ほどの大型工事車が下りてくるではないか。ひょっとすると予定コースで行けるかもと林道に突入すると行けた・工事は済んだ模様。なんとか大権現駐車場、玉屋神社登山口・鬼杉登山口を通過し登山口に近い大南林道の駐車場に 9 時 20 分に着いた。

岩場の難所は念頭においての山行だったが登山口までに難関があろうとは予期もしなかっただけに無事登山口にたどりついてほっとした。岳滅鬼岳登山口までのこの林道は広くもありよく整備されているようであったが林道左右には二・三箇所の陥没部や木を巻き込んだ土砂崩れもあり気をつけて進む、Y リーダーのいう時間稼ぎに早足で進み約 30 分で登山口に着いた。

ここでコンパスによる入念な地図合わせを済ませて出発。すぐ石ゴロゴロのえぐれた登山道となった。



10 分ほどで偵察時に気づいたという岳滅鬼岳

「峰入り古道」の分岐、今回はやさしそうなこの道をとおり岳滅鬼峠に出た。空は依然として曇り、ガスも掛かり見晴らしはなし。ここからはずっと狭い痩せ尾根の連続。峠から約 1 時間弱でいよいよ難所の岩壁があらわれた。岩壁の左上方は出っ張った岩と倒木を利用した斜め方向の 7-8m のロープがかかり先の尾根道に続く、ロープは古く安全かどうかはわからない。横方向は先の尾根までは約 15m ほどの小さい岩の凸凹はあるが簡単

には行けそうもない岩壁斜面・20m 下方に雑木が見える。先方に行く Y リーダーと女性 S、T、I の 3 女史が 20m の岩壁中部をトラバースした。さすが岩場ロープワークの訓練の成果と感心した。Y リーダーは岩壁上部に移動しザイルを上から降ろす。まず若い剣道で鍛えた外山氏がビレイザイルをつけ斜面の横断を済ます。小生は横斜面のビレイなしのトラバースのつもり

で下方を見たが 20m下まで続く斜面はやはりヤバイ・ヤバイ。ヘルメットを着けるには時間を要する上、ビレイなしでのトラバースも無理とあきらめ、意を決め上部岩壁斜面横断することにした。上半身スワミベルトは練習済で、すばやくできていたのでビレイザイルは救助担当の Y 女史に取り付けてもらい 3~4 分程度かかったが無事斜面横断できた。続いてロープワーク豊富な T、Y 両女史と続き、結局この斜面通過は 20 分程かかった。ここの通過が本日のメインイベント、難所通過で肝もやや冷えつつ、ここから 20 分程で風通しが良い・上塚山分岐に着き昼食・一休みして先を急いだ。

ついで開花時期は既に過ぎて咲き殻の多いシャクナゲ群生の石楠花の頭~最低鞍部を通過し、ここからは尾根は広いが急坂のピーク・枯れ杉の原っぱ状の猫の丸尾と続いた。ここで山口県から来たという夫婦づれの登山者と会話（先々月の黒河内山登山など）し記念写真のシャッターをおしてもらった。ここからピークをまた二つ通って下りとなり約 1 時間で前方にガスの切れ間から岩壁が突然現れた、裏英彦山解説書に言う籠水峠の大絶壁（頂上部には木が生え、幅 50 高さ 30 はあろうと思える岩壁）だ。ここでまた猫の丸尾で



会った夫婦づれに追いつかれたが彼らは直進し絶壁を迂回し薬師峠方向に行くようだった。こちらは小休息しさてどっちの方向へと一瞬思案した、小生ら先の位置にいたものは道が見えなかったが、後方の T 氏がすぐ左下方に道がと指摘、小生はちょうど籠水峠の標識の位置におりいままで来た道の真っ直ぐ先方を見ていた。山道を進む時の要注意視点だ（前方 10M ほど前を見て進む）。



ここからは下り一辺倒のコケが生えた・薄暗い・ちょうど多良岳裏側の佐賀県側の道と同じようないわゆる修験者の道が続き 30 分で英彦山南岳分岐、ついで 10 分で鬼杉に着いた。この大杉は樹齢は 1200 年木の回りにはいわゆる屋久杉並の柵に取り囲まれており、屋久島の 1000 年杉と同様な木肌で見事なものだった。そばの休息所らしき東屋の苔むした屋根には大株のギボウシが

生え風情のある光景であった。近くにあるという大南神社は時間の都合もあり残念ながら寄れなかった。ここから薄暗い坂道、樹林帯を過ぎての田舎の農道状の道と続き、天候も薄晴れぎみとなった 15 時 30 分、合計 6 時間の歩行時間、歩数 14000 歩、約 8.7Km で下山口の鬼杉登山口にたどり着いた。今までの英彦山登山（急登であるが整備された山道）とはちと違う行程の裏英彦山の修験道者が通うおもしろい山行であった。小生はいつもの大腿部痙攣もなく初ビレイロープ着き斜面岩壁登攀も無事にできたことに同行のみなさんに感謝したい。

（須賀山人 記）

寄稿

個人と組織

先日、英彦山県境尾根を岳滅鬼峠から左回りに偵察してみたが、殆どが痩せ尾根のアップダウンで中々厳しいものがありました。

最大の難所は上塚山分岐手前の断崖絶壁。

一枚岩に突き出た小石を手掛かりに両手両足で横移動、下を見下ろせば30mほどある。フリーライミング感覚で取りついたものの、とても緊張しました。

しかし、下を見ても恐怖を感じることなく、また本番で全員を無事に移動させる為にロープをどのように使うべきか、あるいはコースを変えるべきかなどと考を巡らせる事が出来たのも、オレンジハイキングや県連のネットワークで知り合った会の方々から、技術指導を受けていたお蔭だと思っています。

個人であれば、単に足腰・体力を鍛えるだけに終始し、安全登山の技術を学ぶ事など思いもよらなかったと思います。

今、組織(各会・県連・九プロ・全国連)に入る必要性の有無が言われて久しい。

それは、一言で言えば束縛(義務や責任)を受ける事の煩わしさだと思います。

発足当初の時代背景や若く意気に燃えていた頃とは大きく様変わりした今、ある程度止むを得ない事と思います。だから、組織も理念の押付ではなく、会員の想いを汲み上げた現実に対応した発想の転換が必要ではないでしょうか。

一方、会員の方々も、組織に所属していればこそ学べる安全登山の技術がある事を理解し、次に構成員の一人であることを自覚し、発展・維持の為に自分がやれることは何かと考えていくと良いのではないのでしょうか。

それらは単独の会のみではなく他の会との連携によって啓発されて行きます。

そのネットワークの要として県連があり、九プロがあり、全国連があり、不足はあっても組織だからこそ提供できる行事や新技術があると考えれば、組織と会員のずれは解消するのではないのでしょうか。……とは言え、最後まで目を通した方お疲れ様でした。

(県連事務局長 記)



6月はなんてったってクリーンハイク





👉祖母山山頂より大障子岩
をのぞむ

↓英彦山系の鬼杉



英彦山県境尾根の最低鞍部

おれんじニュースNo292	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡正廣
編集責任者 及び 原稿送付先	山下ちず子
発行年月日	2014.6.25
財政担当	
郵便振替口座	
ホームページ	http://orangehikingclub.com/

関東は梅雨まっさかり
の感じですが九州はまだ本格的ではありません。でも今月の写真はガスがかかったのがが多いのですがPM2.5の影響もあるようです。今月は鎗水氏、中野さん、田村さんから写真を提供していただきました。ありがとうございました。
山下